(2) 授業モデル2（小学校４年）

児童による適切なコース選択と操作的な活動で分かりやすく楽しく学び、算数への苦手意識を軽減する習熟度別少人数学習「基礎コース」の授業づくりの提案　＜課題２、課題3の解決例＞

ア　解決を図る課題

○　算数を苦手と感じている児童は、「発展コース」である速く進むコースより、「基礎コース」であるじっくり進むコースに多い。じっくり進むコースで学ぶ約５割の児童が、苦手意識をもちながら学習をしている状況にある。

○　４年生の児童を見ると、約９割が自分で希望したコースで学んでいると考えているが、そのうち約２割は授業に満足していない。適切なコース選択の工夫や、分かりやすく楽しい授業づくりが課題となっている。

イ　授業モデルの提案

習熟度別少人数学習「基礎コース」で学ぶ児童の満足感の向上や苦手意識を軽減するために、児童によるコース選択の機会を複数回設けることや観察や操作などの体験的な活動を意図的に取り入れて、授業が分かることの楽しさを味わわせる授業づくりを提案する。

教師は児童の目線をもち、学習内容が抽象的になる小学校高学年に向けて、「授業がよく分かる」「授業が楽しい」という観点から授業改善を行う必要がある。また、児童の授業への意欲を高めるコース選択の方法を示すことも必要である。このことを踏まえた授業モデルを示す。

ウ　授業モデルの実践

対　象	安中市立東横野小学校　第４学年 習熟度別少人数学習　基礎コース
期　間	平成18年11月13日～12月１日　13時間
単元名	広さを調べよう （面積の求め方と表し方）
授業者	長期研修員　　磯貝　博昭

エ　授業づくりのポイント

(ｱ) 児童による適切なコース選択の工夫

○　児童のコース決定の目安をもたせるために、単元の始めに２時間程度のチーム・ティーチングを実施する。これにより、学年全体の児童が共通して、単元全体の見通しをもてるとともに、自分にあったコース選択ができるようになると考える。

また、学習プリントにコース選択欄を設けるとともに、「今日の授業は楽しかったか」「分かったか」などの視点で振り返る自己評価を組み込むことで、次時の授業の意欲を高めたり、コース選択における目安としたりできると考える。

○　児童のコース選択の満足感をもたせるために習熟度別少人数学習を行う前時には、コース選択を必ず行うようにする。コースを変更する機会を複数回設けることで、次時の授業への意欲をもたせることができると考える。

(ｲ) 児童の苦手意識を軽減する工夫

○　操作的な活動や作業的な活動を積極的に取り入れ、児童主体の授業を展開することで、学習内容が分かることの楽しさを実感させ、児童の算数の授業への満足感を高めることができると考える。

○　授業の流れを想定したワークシートを作成し、それに基づく板書を計画することにより、児童は学習場面の把握がしやすくなり、学習内容の確実な定着を図ることができると考える。また、児童一人一人に卓上ホワイトボードをもたせ、考えを書き留めたり、黒板に掲示して発表したりするなど、活躍する場面を設ける。これにより、授業に参加しているという、自己肯定感を味わうことができると考える。

授業実践の成果

○　コース変更の機会を複数回設けたり、選択の目安を設定したりしたことにより、児童による適切なコース選択が行われ、授業に対する理解度と満足感が高まった。

○　操作的な活動の積極的な導入、板書の工夫、卓上ホワイトボードの活用により、児童の学習への主体的な取組が見られた。さらに、授業に対する理解度や満足感が高まり、苦手意識が大幅に軽減された。